

令和2年度国立大学法人等
職員採用（図書系）第二次試験問題

注 意 事 項

1. 問題は**16問（21ページ）**で、解答時間は**1時間30分**です。
2. この問題は、後ほど回収します。切り取ったり、転記したり、持ち帰ったりしてはいけません。
3. 下欄及び解答用紙に第一次試験受験番号、第一次試験合格通知書番号及び氏名を記入してください。

第一次試験受験番号	第一次試験合格通知書番号
氏名	

指示があるまで中を開いてはいけません

【No. 1】

次は、欧米の図書館史に関する説明である。(1)～(4)について、正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 1643年、フランスの司書ガブリエル・ノーデによってフランス・イタリア・ドイツ等で収集された膨大な図書をもとに、枢機卿ジュール・マザランがマザラン図書館を設置した。ノーデは「どんな身分の人に対しても決して利用を拒まない」という方針を立てたが、時代を先取りしすぎたこの方針は実現しなかった。
- (2) 1731年、ベンジャミン・フランクリンを中心とした会員制図書館がアメリカのフィラデルフィアで設立された。会員制図書館は会員が費用を出し合って図書を購入する仕組みで、その後のソーシャルライブラリーの起源となった。ソーシャルライブラリーは利用者を階層や職業で限定せず、また幅広い分野の蔵書を揃えることを特徴とした。
- (3) ボストン公共図書館館長ジャスティン・ウィンザーは、体系的な図書館員養成制度の欠如を指摘して専門職養成機関の必要性を説き、1887年、コロンビア大学の図書館学校校長に就任した。同校は世界で初めて大学に設置された図書館員養成機関となった。
- (4) 1876年にメルヴィル・デューイが刊行したデューイ十進分類法(DDC)は各地の図書館に広く普及し、その後作成された分類法にも多大な影響を与えた。1901年刊行のアメリカ議会図書館分類法(LCC)や1905年刊行の国際十進分類法(UDC)もデューイ十進分類法を範としている。

【No. 2】

次は、文部科学省が実施した平成 30 年度の「学術情報基盤実態調査」及びその結果報告にもとづいた我が国の大学及び大学図書館の現況に関する記述である。正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 「学術情報基盤実態調査」の調査対象は国公立大学（短期大学は除く）であり、対象大学数は年々増加している。国立大学法人化（平成 16 年 4 月）以降、国立大学においては統合・再編のため法人化以前よりも大学数は減少している一方、公立大学及び私立大学は国立大学数の減少以上にそれぞれ大学数が増加しているためである。
- (2) 大学の総経費に占める図書館運営費（人件費、システム経費等）の割合は、平成 20 年度調査と比較すると国公立大学全体で平均 1.4%から 1.1%へ減少している。逆に図書館資料費は近年の電子ジャーナル購入経費の上昇を反映して 1.0%から 1.2%へ増加している。
- (3) 大学図書館の組織・運営面における課題として「専門性を有する人材の確保」を、また、経費・設備面における課題として「資料収蔵スペース狭隘化の解消」を、ともに 7 割以上の大学が課題として挙げている。
- (4) 大学を巡る環境の変化に伴い、教育機能や研究機能の支援に対する大学図書館の貢献が一層期待されるようになった。教育機能の観点ではアクティブ・ラーニング・スペースの設置が、研究機能の観点では機関リポジトリの構築がそれぞれ年々進んでおり、ともに 6 割以上の大学で整備済となっている。

【No. 3】

我が国の学術情報流通に大きな役割を果たしている国立国会図書館，国立情報学研究所及び科学技術振興機構について，それぞれの機関が実施する事業を二つずつ下から選んで記号で答えなさい。

- (a) 公共図書館，大学図書館，学校図書館，専門図書館等におけるレファレンス事例，調べ方マニュアル，特別コレクション及び参加館プロフィールに係るデータを蓄積するとともにインターネットを通じて提供する「レファレンス協同データベース」を構築・運用している。
- (b) 国内で発行される学術コンテンツの所在情報を，DOI (Digital Object Identifier) により一元的に整理・管理するための DOI 登録機関「ジャパンリンクセンター (JaLC)」を国内 4 機関で共同運営しており，その事務局を担当している。
- (c) 国内の大学，研究機関等を対象とした先進的な情報通信ネットワーク「学術情報ネットワーク SINET5」を提供するとともに，多くの海外研究ネットワークと相互接続し，クラウド，セキュリティ，学術コンテンツを全国 100 ギガ bps のネットワークでつなぐ学術情報基盤を構築・運用している。
- (d) 国内の学協会等が刊行する電子ジャーナル出版を推進するプラットフォーム「科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE)」を運用し，学協会等の 3,000 誌以上のジャーナルや会議録などの学術的な出版物を公開している。
- (e) 東日本大震災に関する記録等を後世に伝え，今後の復興や防災に役立てるため，大震災に関連する音声・動画，写真，ウェブ情報等を収集・保存し，「ひなぎく」というポータルサイトを通じて提供している。
- (f) 文部科学省及び日本学術振興会が実施する科学研究費助成事業により行われた研究について，採択時のデータ（採択課題），研究成果の概要（研究実績報告書等），研究成果報告書及び自己評価報告書を収録した「科学研究費助成事業データベース (KAKEN)」を構築・運用している。

【No. 4】

次は、アメリカ図書館協会（ALA）が 2000 年に採択、2014 年に修正した「図書館の原則」の一節「大学図書館に関する知的自由の原則」である。（1）～（3）に該当するものを文中の No. 1～12 からそれぞれ一つずつ選び、項目の番号を答えなさい。

- （1） 施設・設備の提供について書かれた項目
- （2） 蔵書構成の選択について書かれた項目
- （3） 情報への平等なアクセスについて書かれた項目

Intellectual Freedom Principles for Academic Libraries : An Interpretation of the Library Bill of Rights

A strong intellectual freedom perspective is critical to the development of academic library collections, services, and instruction that dispassionately meets the education and research needs of a college or university community. The purpose of this statement is to outline how and where intellectual freedom principles fit into an academic library setting, thereby raising consciousness of the intellectual freedom context within which academic librarians work. The following principles should be reflected in all relevant library policy documents.

No.1 The general principles set forth in the Library Bill of Rights form an indispensable framework for building collections, services, and policies that serve the entire academic community.

No.2 The privacy of library users is and must be inviolable. Policies should be in place that maintain confidentiality of library borrowing records and of other information relating to personal use of library information and services.

No.3 The development of library collections in support of an institution's instruction and research programs should transcend the personal values of the selector. In the interests of research and learning, it is essential that collections contain materials representing a variety of perspectives on subjects that may be considered controversial.

No.4 Preservation and replacement efforts should ensure that balance in library materials is maintained and that controversial materials are not removed from the collections through theft, loss, mutilation, or normal wear and tear. There should be

alertness to efforts by special interest groups to bias a collection through systematic theft or mutilation.

No.5 Licensing agreements should be consistent with the Library Bill of Rights, and should maximize access.

No.6 Open and unfiltered access to the Internet should be conveniently available to the academic community in a college or university library. Content filtering devices and content-based restrictions are a contradiction of the academic library mission to further research and learning through exposure to the broadest possible range of ideas and information. Such restrictions are a fundamental violation of intellectual freedom in academic libraries.

No.7 Freedom of information and of creative expression should be reflected in library exhibits and in all relevant library policy documents.

No.8 Library meeting rooms, research carrels, exhibit spaces, and other facilities should be available to the academic community regardless of research being pursued or subject being discussed. Any restrictions made necessary because of limited availability of space should be based on need, as reflected in library policy, rather than on content of research or discussion.

No.9 Whenever possible, library services should be available without charge in order to encourage inquiry. Where charges are necessary, a free or low-cost alternative (e.g., downloading to disc rather than printing) should be available when possible.

No.10 A service philosophy should be promoted that affords equal access to information for all in the academic community with no discrimination on the basis of race, age, values, gender, sexual orientation, gender identity, cultural or ethnic background, physical, sensory, cognitive or learning disability, economic status, religious beliefs, or views.

No.11 A procedure ensuring due process should be in place to deal with requests by those within and outside the academic community for removal or addition of library resources, exhibits, or services.

No.12 It is recommended that this statement of principle be endorsed by appropriate institutional governing bodies, including the faculty senate or similar instrument of faculty governance.

【No. 5】

次は、「日本目録規則（NCR）2018年版」に関する記述である。（1）～（4）に該当するものを下から選んで記号で答えなさい。

「NCR 2018 年版」の構成は、1997 年に国際図書館連盟（IFLA）から刊行された

〔1〕モデルに準拠している。

〔1〕モデルでは資料を、抽象的な創作物の単位である著作から、テキストなどの形で内容が定まった〔2〕という段階、何らかの媒体に具体化された〔3〕という段階を経て、1点1点の資料を示す個別資料にいたる、順次具現化される構造としてとらえる。同一著作を集中させるための統一タイトルの適用は、従来も無著者名古典・聖典・音楽作品を対象に行われていたが、〔1〕モデルでは原則としてすべての著作に対して典拠コントロールを行い、資料の発見可能性を高めている。「NCR 2018 年版」が準拠するこうした特徴は、前版「NCR 1987 年版 改訂 3 版」からの大きな変更点である。

また、「NCR 2018 年版」は、「英米目録規則 第 2 版（AACR2）」の後継規則として 2010 年に刊行された〔4〕との相互運用性を持ち、データを交換・共有することが可能であり、機械可読性の向上にもつながっている。

(a) Dublin Core

(b) FRBR

(c) ICP

(d) ISBD

(e) RDA

(f) 概念形

(g) 基準形

(h) 体現形

(i) 著作物

(j) 表現形

(k) 物理形

【No. 6】

次は、各図書を「日本十進分類法」（新訂10版）に基づき、第3次区分表（3桁）で分類したものである。□に該当する数字（0～9）を答えなさい。

- | | |
|--|-------|
| (1) 82年生まれ、キム・ジョン / チョ・ナムジュ著 | □ □ 9 |
| (2) 岩波講座哲学 / 飯田隆 [ほか] 編集委員 ; 01 | □ 0 □ |
| (3) 細胞の分子生物学 / Bruce Alberts [ほか] 著. 第6版 | □ □ 3 |
| (4) マンキューマクロ経済学 / N・グレゴリー・マンキュー著. 第4版 | □ □ 1 |

【No. 7】

次は、学術雑誌および電子ジャーナルについて記述したものである。(1)～(4)の文章が指し示す語句を答えなさい。

- (1) 複数の出版社から論文を集め、データベースを独自に構築してサービスを提供する代行業者。データベースで提供される論文は、出版社が自社のウェブサイトでも別途電子ジャーナルとして提供しているケースが多い。
- (2) 電子ジャーナル・文献データベース・機関リポジトリ等を相互にリンクさせ、書誌データベースや OPAC 等の検索結果から文献やサービスへのリンク先を仲介し、資料を論文単位でスムーズに入手できるよう支援するシステム。利用者は自分に最適と思われる文献入手先を自分で選択することができる。
- (3) 特定の出版社のすべての電子ジャーナル、もしくは特定分野の電子ジャーナルをまとめて購読する形態。パッケージ契約とも言われている。この契約形態が各国の学術機関に導入された当初は、アクセスできるタイトル数が増加したこともあって歓迎されたが、契約金額が毎年上昇する条件を課す出版社が多く、近年はこの形態での契約を中止する機関も増えてきている。
- (4) 特定専門分野で重要性が高いとみなされている一群の学術雑誌。重要性を判定するには、専門家や研究者が評価する、引用分析を行って被引用頻度の高い雑誌を選定する、等の方法がある。

【No. 8】

次は、我が国の機関リポジトリの状況に関する説明である。正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 機関リポジトリとは、大学等の研究・教育機関が所属する研究者らの研究成果を収集し、オープンアクセスとして公開するものである。
- (2) 2012年、国立情報学研究所が、クラウド型の機関リポジトリ環境提供サービスである JAIRO Cloud の提供を開始した。JAIRO Cloud によって、独自のシステム構築が難しい機関での機関リポジトリ設置が進んだこともあり、2019年現在は構築済み機関の7割以上が JAIRO Cloud を利用している。
- (3) 学術雑誌論文は研究・教育機関の代表的な成果物であり、機関リポジトリの収録コンテンツも査読付きの学術雑誌論文が大半を占めている。紀要論文や学位論文等の割合は少ない。

【No. 9】

次は、雑誌“Nature”の研究データ管理に関する Editorial 記事の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

Data management is one example of the way in which public research sponsors and research institutions are implementing* , the push to make scientific research and data freely accessible. Many have made data-management plans mandatory for grant applicants in the past decade or so. All US federal agencies, including the National Science Foundation and the National Institutes of Health, have such policies. Data-management plans must also now be included in grant proposals to the European Research Council and other European Union-funded research programmes. And many national in Europe — including the UK research councils and the London-based Wellcome Trust, world’s largest biomedical research charity — also ask for data plans.

Many scientists already practise data management by default. Astronomers, for example, have been doing so for decades when calibrating their observations and archiving huge amounts of telescope-survey data in standardized, machine-readable catalogues for reuse.

Geneticists, too, use special data repositories to archive the vast amounts of DNA and genome-sequencing data. But less data-intensive fields of science and social research also benefit from data management. For example, geochemists analysing soil bacteria and mineral products in different environments can use it to collaborate more easily. “In the emerging era of , any researcher must be prepared to open up their research processes and results,” says Eloy Rodrigues, library director at the University of Minho in Braga, Portugal, who coordinates FOSTER, an EU-funded e-learning portal.

Still, many scientists are unsure about open-data provisions, and what grant applicants need to do. A 2017 survey of early-career researchers in Europe found that many were unaware of new open-data policies. Only one-quarter of the 1,277 respondents to the survey, carried out by the European Commission and the European Council of Doctoral Candidates and Junior Researchers (Eurodoc), had actually written a data-management plan; another quarter said they didn’t even know what such a plan might be. Most said they’d not received any relevant training or support from their institutions.

“Data management is inevitably going to be an essential skill in the era,” says Eurodoc’s president, Gareth O’Neill, a linguist at Leiden University in the

Netherlands. “And yet, many scientists are scarcely familiar with what it is all about.” The situation in the United States is hardly different, adds Stephanie Simms, a research-data specialist with the California Digital Library (CDL) in Oakland. “We are still at the beginning of a profound shift in research culture,” she says.

(*implement 実施する)

(Schiermeier, Quirin. 2018. “For the record Making project data freely available is vital for .

- (1) 文中の (ア) に該当する最も適切な語を書きなさい (英語 2 語)。
- (2) 文中の (イ) に該当する最も適切なものを下から一つ選んで記号で答えなさい。
(a) funding agencies (b) governments (c) publishers (d) universities
- (3) 以下のうち、本文の論旨に合致するものを選んで答えなさい。
(a) 多くの研究者は、研究データの公開や管理について何をすべきか確信がない。
(b) 社会科学分野では、研究データの公開と共有はあまり有用性がない。
(c) 図書館は、リポジトリへの研究データの登録を推進することによって研究データ管理に貢献すべきである。
(d) 若手研究者を対象とする調査では、約半数が研究データ管理計画を立てている。

【No. 10】

次は、データベースの特徴を記述したものである。(1)～(4)に該当するものを下の記号から選んで答えなさい。

- 1) (1) online は、英語の歴史的変遷を扱った世界で権威のある英語事典の web 版である(有料)。冊子体第 2 版(1989 年版)及びその後のアップデートを含めた 60 万語以上、引用句 250 万が収録されているほか、新語や改訂された語が逐次追加される。
- 2) (2) は、日本国内で研究活動を行っている研究者や、海外で研究活動を行っている日本人研究者など合わせて 30 万人以上の研究者情報等を収集・提供するデータベース型研究者総覧である(無料)。同時に、研究者のプロフィール(経歴・論文リスト等)の管理を支援するインターネット上のサービスでもある。
- 3) (3) は、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」において国文学研究資料館が構築するもので、複数の機関が所蔵する古典籍の情報や、その高精細画像を一度に検索できるポータルサイトである(無料)。
- 4) (4) 法令検索(旧称「法令データ提供システム」)は、日本の法令の検索・閲覧システムである(無料)。総務省行政管理局が運営し、法令名・事項・法令用語等で検索できる。

- | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------------|
| (a) D1-Law | (b) e-Gov | (c) e-Stat |
| (d) JapanKnowledge | (e) Lexis Advance | (f) Marquis Biographies |
| (g) OECD | (h) OED | (i) researchmap |
| (j) 近代デジタルライブラリー | (k) 古典籍総合データベース | (l) 新日本古典籍総合データベース |

【No. 11】

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成 25 年法律第 65 号）は、障害者の権利の保障と実質的平等を確保するため、不当な差別的取扱いの禁止、合理的配慮の提供、環境の整備を行政機関等に義務付けている。

次は、これらの 3 つの措置に関する図書館の取組みや図書館職員の対応について記述したものである。日本図書館協会が作成した「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン」（2016 年 3 月）及び「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン Q&A」（2017 年 3 月）に基づき、正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 合理的配慮の提供にあたって職員の対応に時間や人数を要する場合、利用者に対し事前に来館日時との連絡を求めることは、不当な差別的取扱いに当たる。
- (2) マルチメディアデジターの資料を利用したいとの求めに対し、「当館では所蔵していない」という理由で図書館の利用を断ることは、不当な差別的取扱いに当たる。
- (3) 来館中の障害のある利用者から、図書館の近くにある郵便局に行きたいので介助を頼まれ、郵便局まで付き添ったことは、合理的配慮の提供として適切な例である。
- (4) 環境の整備とは、あらかじめ障害者を含むさまざまな利用者が利用できるよう、図書館の施設・設備・資料・サービス等を整えることであり、研修等による職員の資質の向上は含まれない。

【No. 12】

次は、国際図書館連盟（IFLA）が公開したブックレット”How libraries contribute to the United Nations 2030 Agenda”の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

In September 2015 Member States of the United Nations adopted Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development (UN 2030 Agenda).

The new UN 2030 Agenda is an inclusive, integrated framework of 17 spanning economic, environmental and social development. By achieving this Agenda, no one will be left behind. Libraries are key institutions to help achieve the Goals.

Public to information enables people to make informed decisions that can improve their lives. Communities that have to timely and relevant information for all are better positioned to eradicate poverty and inequality, improve agriculture, provide quality education, and support people’s health, culture, research, and innovation.

Worldwide, 320,000 public libraries and more than a million parliamentary, national, university, research, school, and special libraries ensure that information and the skills to use it are available to everyone, making them critical institutions for all in the digital age. Libraries provide information and communication technology (ICT) , help people develop the capacity to use information effectively, and preserve information to ensure ongoing for future generations. They provide an established, trusted network of local institutions that can reach out effectively to all parts of the population.

Libraries and to information contribute to improved outcomes across the by:

- Promoting universal literacy, including digital, media and information literacy and skills, with the support of dedicated staff;
- Closing gaps in to information and helping government, civil society and business to understand local information needs better;
- Providing a network of delivery sites for government programmes and services;
- Advancing digital inclusion through to ICT;
- Serving as the heart of the research and academic community; and
- Preserving and providing to the world’s culture and heritage

- (1) 文中の（ア）に該当する語句を答えなさい。
- (2) 文中の（イ）に共通して該当する語句を答えなさい。
- (3) 本文の論旨から，文中の（ウ）に該当する最も適切なものを下から一つ選んで記号で答えなさい。
(a) inclusion (b) infrastructure (c) intermediary (d) integration

【No. 13】

次は、図書館の評価について記述したものである。(1)～(4)に該当する語句を答えなさい。

事業における業務を円滑に行う手法として第二次世界大戦後にウィリアム・デミングによって広まった(1)は、図書館経営にも取り入れられてきた。(1)では、評価はそれ自体が目的ではなく、改善と次のサイクルを前提としていなければならないことが示されている。

多くの図書館では、来館者数、利用登録者数、作業処理数、貸出数などのデータを収集した(2)により、サービスや業務の測定を日常的に行なっている。図書館の評価にあたっては、この(2)とともに、サービスを提供するための資源配分の有効性や業務処理における効率性、図書館の提供するサービスの有効性を点検するための指標である(3)が用いられる。(3)は、図書館の評価の視点を活動結果(例えば貸出数)にだけ焦点を当てるのではなく、図書館が持っている制約(例えばサービス対象人口数)と対比して図書館の状態を示唆するもので、利用に関しては、我が国でも人口当たりの貸出数や(4)(貸出数/蔵書数)がよく使われてきた。

【No. 14】

次は、ジャーナルインパクトファクター (Journal Impact Factor) に関する文書である。これに関する以下の問いに答えなさい。

ジャーナルインパクトファクター (以下、「インパクトファクター」) は、引用文献索引データベース“Web of Science”に収録されているジャーナルを対象に、特定の期間において、あるジャーナルに掲載された論文が平均的にどれくらい引用されているかを示す尺度で、ジャーナルの影響度を表す指標の一つである。あるジャーナルの影響度を同分野の他のジャーナルの影響度と相対的に比較することができる。対象年の過去 2 年間に出版されたあるジャーナルの論文が、対象年に出版された論文に引用された回数を計算する。

- (1) 2019 年のインパクトファクターを計算する場合、下の計算式の (ア) に該当する語句を答えなさい。

$$\boxed{\begin{array}{c} \text{2019 年の} \\ \text{インパクト} \\ \text{ファクター} \end{array}} = \frac{\boxed{\begin{array}{c} \text{2017 年の掲載論文} \\ \text{の (ア)} \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{2018 年の掲載論文} \\ \text{の (ア)} \end{array}}}{\boxed{\begin{array}{c} \text{2017 年の} \\ \text{掲載論文数} \end{array}} + \boxed{\begin{array}{c} \text{2018 年の} \\ \text{掲載論文数} \end{array}}}$$

- (2) 下の表の数値を使って、学術雑誌 X の 2019 年のインパクトファクター (四捨五入して小数点以下第 1 位まで) を求めなさい。ただし、数値は実際のデータベースのものと異なっている。

論文掲載年	2017 年	2018 年
全ジャーナル数	11,655	12,001
全論文数	166,525	173,510
学術雑誌 X の掲載論文数	205	220
2019 年の全被引用数	1,698,555	1,769,800
2019 年の雑誌 X の被引用数	1,125	1,255

【No. 15】

次は、情報技術に関する説明である。(1)～(4)に該当するものを下から選んで記号で答えなさい。

- 1) インターネットに接続されているコンピュータには、世界中のどのコンピュータとも区別できる固有の番号である IP (Internet Protocol) アドレスが割り当てられている。IP アドレスは単純な数字の羅列であるが、これを人間が使いやすいように文字列で表示するのが (1) である。通信時に IP アドレスと (1) を相互に対応づけて変換する仕組みが DNS である。
- 2) コンピュータはハードウェアと呼ばれる物理的な装置と、それを動かすための命令群としてのソフトウェアで構成される。ハードウェアは主として、(2) , 主記憶装置 (メモリー), 補助記憶装置, 入出力装置等から成る。(2) はコンピュータの頭脳とも言うべき装置であり、主記憶装置からコンピュータに行わせる命令を取り出し実行している。
- 3) 情報セキュリティとは、パソコンなどの情報機器とそれにつながっているネットワークが、機器の故障や情報流出、コンピュータウイルスなどの感染から守られ、各種のサービスが継続的に利用できるように必要な対策を施すことである。情報セキュリティの三要素として、①機密性 (Confidentiality), ② (3) , ③可用性 (Availability) があり、その英語の頭文字から CIA と呼ばれている。
- 4) 物を管理する技術で重要なのが自動認識技術であり、バーコードのように光学的に認識する方式に対して、近年では電波を利用した認証技術として (4) が注目されるようになった。(4) は IC チップに書き込まれた情報を利用することから IC タグの名称で呼ばれることが多い。

- | | | |
|----------|------------|-----------------|
| (a) BDS | (b) CPU | (c) Domain Name |
| (d) OCR | (e) OS | (f) QR コード |
| (g) RFID | (h) TCP/IP | (i) URL |
| (j) 完全性 | (k) 真正性 | (l) 脆弱性 |

【No. 16】

次は、サリ・フェルドマン（アメリカ図書館協会前会長、オハイオ州クヤホガ郡立図書館長）の講演 ”Looking forward: libraries of tomorrow”（2016 年 11 月 4 日同志社大学図書館司書課程特別講演会）の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

Librarians are faced today with an interesting dilemma. We are busier than at any other point in our history, but we continually challenged to prove our relevance in an increasingly digital world. The truth is that the rise of digital environments has created new life for librarians. Our job as industry leaders is to be proactive and identify needs before customers can necessarily articulate them. For libraries, that's the story of transformation that we all need to tell.

I am going to briefly review some trends that particularly propelled libraries forward. These are grouped as:

- ・ Internal growth, access to technology, place for content creation, centers for digital literacy.
- ・ External forces, Third place + civic engagement, convenience + service and collaborative consumption.
- ・ Digital resources, eBooks, eAudiobooks, eMagazines, etc., streaming media and subscription resources.

By internal growth I mean those changes we have proactively made to remain relevant as everything about information consumption has changed. There are three main categories, providing access to technology, making content creation as important as content collection, and serving a centers of digital literacy.

We recognize that libraries have become centers for digital literacy. Every day we are teaching people how to use a mouse, create their first email account and search Google. We are also teaching resume writing and LinkedIn Basics, downloading apps, and personal computer security.

Relative to external forces, I have identified these three global trends that libraries have met and have ultimately helped us to thrive as a center of community life.

Third place is that place you visit other than home and work. The term was coined by Ray Oldenburg in the early 90's in his book, "The Great, Good Place", and, for many, it's the library. There are many reasons for the popularity of library as place, but none as impactful as the access to high speed wireless. The technology needs of distance education, telecommuting and internet based business are all being met in libraries across the US.

Disruptive technology have their challenges. Libraries feel it in our two biggest cost

centers, staff and collection. Staff must expand their knowledge and experience with devices and digital tools in a constant state of change. Staff need training and we need staff with new competencies. We must purchase content in physical formats of all kinds and digital formats which are typically 2-3 times the retail price. All the content is sold to libraries at a premium.

Librarians of today and tomorrow must be negotiators, collaborators, facilitators, technology and help desk experts; flexible, dynamic and comfortable with uncertainty. They must be learning-oriented and curious. There's more change to come.

Librarians today must be advocate. We want to influence people and amplify the message that libraries have transformed and that libraries create individual opportunity and community progress. We want to tell our story, but we also want policy makers, stakeholders and funders to be able to tell our story.

What brings people into the library is the personal connection. The library of the future is about people. It's not the raw number of kids who participate in the summer reading program, it's the story of one kid who came to the library for homework help and became the first in their family to go to college. It's not the number of small business seminars the library offers, it's the story of one person who started an online business, birthed at the Washington DC Public Library.

Looking forward: In 2020, the library will be more about what it does for people rather than what is has for people. This represents libraries of tomorrow.

(抜粋, 一部改変)

- (1) 文中の“Third place”とは、出典元である Ray Oldenburg の著作では何を指しているか日本語で答えなさい。
- (2) 図書館の変革を伝えるにふさわしいストーリーとして、文中で挙げられている二つのケースを日本語で答えなさい。